



かわい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/>

「生きたキャリア教育」の実践に向けて

校長 窪田 剛久

保護者の皆様、先日は「～秋のかわいっ子運動会 2021～」をご参観いただき、誠にありがとうございました。今年度もコロナ禍の影響を考慮し、徒競走と演技発表という形での開催となりましたが、子ども達が生き生きと活動する様子を拝見することができ、大きな活力をいただくことができました。

11月は「全校遠足」「～秋のかわいっ子運動会 2021～」と大きな行事が2つもあり、大変充実した一か月でした。本番当日に向け、子ども達は「たてわりリーダー会議」や「ブロック練習」を重ね、異学年同士の学び合いを大切にしながら入念な準備をしてきました。だからこそ当日に大きな達成感をもって終わることができたのだと思います。ここに「異学年交流」の良さがあります。

さて、小学校の現場でも「キャリア教育」という言葉を聞く機会が増えてきました。そもそも「キャリア教育」とは何なのでしょう。中央教育審議会では「キャリア教育」を次のように定義づけています。「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育（平成23年1月31日、答申）」また「キャリア」については同答申の中で「人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。（中略）人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見だしていく連なりや積み重ねが、『キャリア』の意味するところである。」つまり「社会的・職業的自立」を目標としています。その能力や態度は「役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見だしていく」ことで培われるということです。



小学校には係活動や当番活動、委員会活動などがあります。子ども達は活動の中で役割を分担し、よりよい学校生活づくりに取り組んでいます。そして、役割を果たしていくことでその価値を見だし、自主的、実践的で健全な生活態度を身に付けていくのです。これは正に、小学校で行われている「キャリア教育」です。「社会的・職業的自立」と聞くと、小学校からは遠いように感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし1年生からすでに「キャリア教育」は始まっています。義務教育期間は9年間です。5年生後期からは「キャリア教育」の後半に入ります。残りの4年半

で「社会的・職業的自立」に向けた基礎的な能力、態度を身に付け、自分で意思決定のできる人材を育成しなければなりません。このように俯瞰すると「キャリア教育」の重要性が見えてきます。このことを私達教職員はもとより、保護者、地域の方々にご理解いただくことがとても大切です。「キャリア」は「他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら」培われるものだからです。

川井小学校では学校運営組織の中に「たてわり委員会」を設置し、川井小学校の特色ある教育の中核として位置づけています。コロナ禍で制限はありますが、学校生活を通して日常的に「異学年交流」を取り入れています。低学年の子ども達は日常的に人生の少し先輩とふれあい、近い将来のイメージをもつことができます。反対に高学年の先輩達は小さい子達とふれあうことで、年長者となった自分達の役割を自覚し、その場に応じた適切な振る舞い方を身に付けていきます。こうして子ども達の「キャリア」は日々更新され、生き生きと積み重なっていくのです。これからも保護者、地域の方々とのかかわりを大切にしながら、川井小学校は「生きたキャリア教育」の実践に挑戦し続けていきます。ご協力、よろしくお願いたします。